

イデックスオイルレポート ~For a month~

株式会社新出光

【月次概況】

- 第1週、8/1のWTI原油は、先週比2.17ドル高の67.33ドルとなった。米労働省が1日発表した7月の雇用統計(季節調整済み)によると、景気動向を敏感に反映する非農業部門の就業者数は前月から拡大したものの、市場予想を下回った。また、5月と6月の就業者数の伸びが大幅に下方修正され、労働市場の急激な悪化が鮮明となった。また、OPEC加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」が早ければ3日にも、有志8カ国による自主減産分を一段と縮小し、9月の産油量を日量54万8000バレル増やす方針を決定する可能性が高いと報じた。
- 第2週、8/8のWTI原油は、先週比ドル3.45安の63.88ドルとなった。トランプ氏が対ロ制裁を強化し、ロシア産原油を購入するインドや中国との通商摩擦が激化すると懸念を背景に6日続落。ウクライナ停戦実現に向け、米国とロシアの政府関係者は領土に関する合意締結を目指して協議を行っている。早ければ来週にも、トランプ米大統領とロシアのプーチン大統領が首脳会談を行う見通しという。
- 第3週、8/15のWTI原油は、先週比1.08ドル安の62.8ドルとなった。トランプ氏とプーチン氏は15日、米アラスカ州アンカレッジで会談した。対面での米ロ首脳会談は、ロシアが2022年2月にウクライナ侵攻を開始して以降初めてとなる。会談で何らかの進展があれば、米国が対ロシア制裁の緩和に動き、ロシア産原油の供給が拡大するとの期待が強まり、原油は売りが優勢となった。
- 第4週、8/22のWTI原油は、先週比0.86ドル高の63.66ドルとなった。FRBのパウエル議長は22日、政策変更について、失業率の安定を踏まえると「慎重に進められる状況にある」と明言。9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利下げが示唆されたと受け止められた。
- 第5週、8/29のWTI原油は、先週比0.35ドル高の64.01ドルとなった石油輸出国機構(OPEC)とロシアなど非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」の有志8カ国は来週7日、10月の生産方針を決定する会合を予定している。OPECプラスは増産を進めることで市場シェア回復を目指しており、需給の緩みを意識した売りが優勢となった。

	8月平均	WTI原油	63.93ドル	前月比	-3.22ドル	為替 1ドル	148.71円	前月差	0.97円
--	------	-------	---------	-----	---------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	出光興産	変動幅	ENEOS	変動幅
8/1~8/6	10 / 5		±0		±0
8/7~8/13	12.2/6.1		+3.5		+3.5
8/14~8/20	10 / 5		-5.0		-5.0
8/21~8/27	10 / 5		-1.0		-1.0
8/28~8/31	10.5/5.2		+1.5		+1.5

※補助金については、左 ガソリン・軽油/右 灯油・重油

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2025年4-6月C重油決定価格	83,930	85,930	【83,930(メニュー)+ 2,000(プレミアム)】
	2025年7-9月C重油仮価格	82,760	85,190	【82,760(メニュー)+ 2,430(プレミアム)】
	2025年7-9月C重油決定価格			
	決定価格 前期比			

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合C重油		A重油
	2025年4-6月決定価格	91,330	95,100
	2025年7-9月仮価格	90,590	
	2025年7-9月決定価格		
	決定価格 前期比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	25/7	9桁速報	65,297	71.28	145.64	1,695
	25/8	最終予測	67,215	72.26	147.89	1,918
	25/9	展望	66,852	72.80	146.00	-363
	25/10	展望	65,954	72.81	144.00	-898

【次世代エネルギー】〈北九州市、浮体式洋上風力の基地整備を検討 組み立てや部材生産〉

北九州市が、浮体式洋上風力発電の部材生産や組み立てを担う総合拠点整備の本格的な検討を開始した。有識者組織の提言を受け武内市長が指示したもので、臨海部の響灘西地区に国内初の浮体式サプライチェーンの中核拠点を構築し、2030年度末の稼働を目指す。今後は排他的経済水域(EEZ)など水深の深い海域での開発が進み主流になるとされる浮体式に備える動きで、2050年のカーボンニュートラル達成に不可欠と位置づけられる。計画では72ヘクタールの用地と周辺水域を活用し、巨大な浮体基礎(フローター)や係留索の製造、風車の保管・組み立てヤードを整備する。この拠点は発電所そのものではなく、将来日本や東アジアの海域に広がる洋上風力の建設や保守を支援する陸上の基地となる。同市は「グリーンエネルギーポートひびき事業」として響灘東地区で国内をリードする着床式の拠点整備も進めており、今回の浮体式拠点の検討により、両方式に対応する洋上風力関連産業の一大集積地としての地位を確立する狙いだ。

出典: 日経電子版 <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOJC0842C0Y5A800C2000000/>

【9月価格変動要因】

- 需要: 米国経済は雇用環境に焦点。米7月雇用統計は前月・前々月分が合計25.8万人の大幅な下方修正となり、リスクオフが進む場面も。トランプ米大統領は「政治的理由で統計を操作した」として米労働省の労働統計局長を解雇する事態に発展。関税影響に伴う採用延期、政府部門の人員整理、AI活用等による省力化・効率化、の3点が主因か。欧州は政治不安が台頭。26日にバイル仏首相が9/8に内閣信任投票を実施すると発表した事を受け、予想外に早いタイミングでの政局不安にフランスの長期国債に売り圧力が強まった。
- 供給: イランに対してスナップバック条項が発動。これによりイラン核合意によって留保されていた国連安保理制裁が復活。既に米国による強力な制裁が発動中であり、国連安保理制裁自体が重大な影響を持っているわけではないが、これが発動された事による事業会社の投資スタンスのシュリンクや取引コスト増に繋がり、結果的にイラン経済にダメージを与える可能性がある。又、6月の国連安保理における対イラン非難決議の採択直後、イスラエルがイランに対して攻撃を加えた事は記憶に新しい。ネタニヤフ政権の支持率が低下する中、イスラエルが改めてイランに対して攻勢に出る可能性は否めず、緊張感が高まっている。
- リスク資産・金融市場: 夏枯れ相場で取引低調な中、8月22日にはWTIでショートが年初来最高水準まで積みあがる場面が見られた。OPEC+は9/7に次回会合を予定。

<1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	74	71
Average	68	65
Low	63	60

<3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	75	72
Average	67	64
Low	60	57

日付	国	9月経済指標カレンダー	日付	国	9月経済指標カレンダー
2	ユーロ	8月消費者物価指数	16	米国	8月小売売上高
2	米国	8月ISM製造業景況指数	17	ユーロ	8月消費者物価指数
4	米国	8月ADP雇用統計	17	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
4	米国	8月ISM非製造業景況指数(19	日本	日銀金融政策決定会合、終了後政策金利発表
5	ユーロ	4-6月期四半期域内総生産(GDP、確定値)	19	日本	8月全国消費者物価指数
5	米国	8月非農業部門雇用者数変化	19	日本	植田和男日銀総裁、定例記者会見
5	米国	8月失業率	24	米国	8月新築住宅販売件数
5	米国	8月平均時給	25	米国	4-6月期四半期実質国内総生産(GDP、確定値)
8	日本	4-6月期四半期実質国内総生産(GDP、改定値)	26	米国	8月個人消費支出
11	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利	30	米国	9月消費者信頼感指数
11	米国	8月消費者物価指数			
11	ユーロ	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見			